

平成27年度 静岡産業技術専門学校

学校自己評価・学校関係者評価 評価報告書

1. 教育理念・教育目標

教育理念

社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

教育目標

学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育活動・教育成果

- ・全学科による職業実践専門課程申請に向け、企業が参画する「教育課程編成委員会」を設置して教育内容の改善を図り、また企業と連携した演習・実習などの授業、教員研修の実施、学校評価の実施などを実践する。
- ・新カリキュラムの開講年度となる「みらい情報科」「コンピュータ科」「ゲームクリエイト科」「広告・WEBデザイン科」「CADデザイン科」について、教育目標を達成し、確かな教育実績を上げるための運営を行う。
- ・各科で科の重点資格も設定し、目標となる取得達成率を明記し、目標達成に努める。
- ・就職実績に対し、単に就職内定率を追うのではなく、学んだことに関連する職種への就職率（専門職内定率）を向上させる「量から質」への指導方針・指導内容の転換・改善を図る。

学生の募集と受け入れ

- ・H28年度入学生募集実員数215名を確保する。
- ・オープンスクールプロジェクトを編成し、他校との差別化や本校の優位性をアピールする運営を計画し、出願率の向上を図る。
- ・県内高校生を対象としたコンテスト・競技会として「Sangi Award 2016」10周年記念大会を企画・実施し、本校の教育に対する認知度を更に向上させる。
- ・県内高等学校からの招聘授業や資格取得講座などを企画・実行し、本校の知名度向上を図る。

教職員組織

- ・有効な学校運営に向けた学内分掌体制を改善・再構築し、学生や地域・企業へ対応する時間を確保し、教育成果向上に結び付ける。
- ・全教員に対し研修参加を更に推進する。特に採用1・2年目の若手教員を中心に、OJTを通しながら研修会への参加・技術交流を積極的に行い、教職員としてのスキルアップを図る。

教育環境

- ・2FCAD実習室、メディア実習室のパソコンをリブレース（更新）することにより、最新技術教育に対応し、教育成果を挙げ、学生満足度を向上する。

学生支援

- ・就職内定率95%以上達成、および未内定者数を一桁台に抑えるべく、キャリア教育の充実、学生への早期の指導及び細やかなサポート体制の下、的確な対応を徹底する。
- ・学生満足度を向上させることで退学率の低減を図り、退学率を4%以内に抑える。
- ・学内イベントの実施状況を再度見直し、より魅力あるものとして企画運営する。

管理・運営

- ・セクシャルハラスメントのみならず、広くハラスメント全般に対応するようハラスメント委員を選出する。
- ・情報セキュリティ委員を選出し、情報セキュリティ対策に努め、個人情報保護を遵守する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

(1) 教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		3.8
<u>成果と課題</u>		
<p>・教育理念並びに教育目標は、入学時に配布される学生便覧に記載されており、入学時のオリエンテーション等を通し、入学生全員に周知している。また、進級後の新学期開始時に、改めて該当学年の教育目標や内容を学生に周知することを徹底した。</p>		
<u>今後の改善方策</u>		
<p>・保護者に対しては、従来の後援会総会や授業見学会等での担当者からの説明や懇談の機会の他に、ホームページ等による情報発信を通し、教育理念や教育目標等を周知する機会を設けることを検討する。</p>		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<p>・保護者に対し、ホームページやパンフレット等を利用した積極的な情報開示・情報共有の機会・手段がこれまで以上に必要であると思う。</p> <p>（回答）学校に関わるステークホルダーの皆様が必要とされている情報の提供機会・手段を常に見直し、改善するため、広くご意見を伺いながら実施したい。</p>		
学校関係者評価 平均		3.8

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	3
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	3
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

- ・みらい情報科を核として、教員・学生が参加した各種学術研究機関や教育機関、企業との共同研究を手がけ、教員・学生が学会発表を行うなど、本校の教育レベルの高さと取り組みを外部へ発信した。
- ・デザイン系学科を中心に、実習のテーマとして外部の企業・団体様より作品制作のテーマを頂き、企画から制作、プレゼンテーション、納品までを実習し、またCADデザイン科においては卒業研究における研究テーマを企業様から頂き研究・発表を行うなど、より実践的な授業を展開した。
- ・医療事務科において、医療事務の現場で学んだことを実際に体験し、就職前に現場業務をより深く知るための「病院現場実習」を、地域の医療組織に依頼し実施した。
- ・文部科学省が主導する「職業実践専門課程」へ全8学科について申請を行った。結果、コンピュータ科と建築科の2学科を除く6学科について認定を受けた。
- ・全学科が「職業実践専門課程」へ申請を行うことを前提に、本校の申請予定学科に該当する関連分野の企業・団体様との連携を深め、教育課程編成委員会を開催し外部委員からの意見やアイデア、最新の業界動向等を教育カリキュラムの改善に活かす取り組みを実施した。
- ・本年度もキャリア教育への取り組みとして、1年次入学時から、定期的にキャリアカウンセラーや、ビジネスマナー講師など外部講師を招き、年間を通してキャリア教育への取り組みを実施した。
- ・授業の点検評価は、学生アンケートを年2回実施し状況を把握し対応している。
- ・全学科の全教員が「関連分野における先端的な知識・技能等を修得」「教員の指導力育成」など教員の資質向上を目的とした研修に参加した。

今後の改善方策

- ・コンピュータ科、建築科の「職業実践専門課程」への申請に向け、申請要件を満たすための取り組みを確実に計画・実行し、組織として体系的に、より実のある取組としてレビューを行い、更なる教育成果につなげる。
- ・各学科における取得目標となる資格を再度レビューし、「重点資格」の取得率向上に向けたカリキュラムの再検討と、教育目標と社会のニーズに合った取得目標資格の絞り込み等を行い教育成果の向上に結び付ける。

学校関係者 評価コメント

- ・実践的な技術の獲得、技術者としての人間形成、学生の習熟度など取り組むべき課題に対し、企業連携の実習の場面で学生が実習目的に対する認識不足にならないように、事前授業等で目標設定や実習意義の理解を更に深めるための取り組み重要であると思う。
(回答) 企業様との連携の在り方に対し、常に見直しと改善を繰り返し、学生にとって最善の形で本来の趣旨に沿う形で実施できるようご意見を伺いながら実施していく。
- ・企業連携授業に対する学生参加の機会を更に拡大してほしい。
(回答) 企業様に本校の取り組みを広く周知し、連携できる学科・分野を更に拡大する取り組みを、今後とも継続していく。
- ・グループ内の大学に「建築」分野の新学科が開設されるにあたり、専門学校との連携は考えているのか？
(回答) 現在大学が開設準備中であり、詳細が決定次第、連携の可能性を模索していきたい。
- ・平成27年度に「職業実践専門課程」に6学科が認定を受けたが、残り2学科への認定を待たずに対外的に周知することは学校としてはできないのか？
(回答) 当課程は、学校全体に対する認定制度ではなく、学校内の学科毎の認定であり、認定を受けた6学科に対してはすでにパンフレット等で認定を受けたことを開示している。残りの2学科についても平成28年度の申請を経て認定され次第開示する。

学校関係者評価 平均

3.8

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	3
3-3	退学率の低減が図られているか	4
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
学校自己評価 平均		3.5
<p><u>成果と課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率以上に、専門職内定率（履修した分野に関わる企業等への内定割合）を向上させることに重点を置いた学科の運営や就職指導を行い、学校全体として85%の専門職内定率を達成することができた。 ・資格取得に関しては、ほぼ例年の実績に近い資格取得実績をあげることができた。 ・学生動向を短いスパンで継続的に追跡調査し、早期に面談や保護者連絡を行うための退学防止策を講じる仕組みを再構築したことで、昨年度退学率を3.02%と、一昨年度5.4%よりも減少することができた。 		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・退学率を更に低減するため、保護者との連携を深める方策を検討し、経済的理由や精神的理由により退学する学生を減らすために、早期の面談や家庭連絡、カウンセリング等を着実に実施する。 ・在校生の外部活動（学会発表・共同研究・コンテスト応募・企業連携 等）の把握は当然ながら、卒業生の対外的活躍を情報として収集・集約し、高校生・保護者・企業など、広く社会に対して広報する取組を検討したい。 		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職内定率の向上に取り組みられていることは大いに評価できる。 ここで言う専門職内定率とはどのように算定しているのか。 (回答) 本校では、学校パンフレット・学校ホームページ・学生便覧など対外的に公開している情報に記載されている各学科の教育目標・内容に照らし、当該学科で学ぶことで身につけた知識・技術を持って就職できた内定先企業・職種について専門職内定率にカウントしている。 ・退学率の大幅な改善は素晴らしいことである。 (回答) 本年度取り組んだ施策を継続し、更なる改善を加えながら、継続的に退学率を下方安定化させるために今後も全学あげて取り組んでいく。 ・卒業生等の卒業後の活躍を把握する試みとしてSNSの活用等を検討してはどうか。 (回答) 同窓会組織等とも連携し、SNSに限らず広く情報収集を行う取り組みを検討していきたい。 ・メンタルが弱い学生に対し、得意分野への個性を伸ばす教育が必要と感じる。 (回答) 専門分野の知識・技術を習得するだけでなく、キャリア教育や人間性の向上を図るための取り組みを、専門家のご意見を伺いながら更に充実させていきたい。 		
学校関係者評価 平均		3.5

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4-5	保護者と適切に連携しているか	3
4-6	卒業生への支援体制はあるか	3
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学校自己評価 平均		3.7
<u>成果と課題</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上を図るため、全教員が一律的に指導する就職ゼミ体制を構築し5年目を終えた。本年度から、就職活動に必要な基本的就職活動リテラシーの指導・サポートと、専門職内定率を向上させるための学科・クラス担当からの学生への情報提供・サポート体制を見直し、これまで以上にきめ細かな就職指導が可能になり、専門職内定率を維持・向上させることに成功した。 ・常設の進路指導室を設置し、学生の就職相談には常時対応している。専任職員を配置し、進路活動支援・求人開拓を行っている。校内企業ガイダンスも外部会場で2回、本校でも3回実施し、就職内定率向上に努めている。 ・学生相談には随時対応しており、心理カウンセリングを専門の心理カウンセラーの元、毎週1回、1日2名のカウンセリングを受付実施している。 ・学生・保護者の経済的負担を軽減する措置として、学校同窓会組織の協力のもと、在学中に限ったノートパソコン貸与制度の運用を開始した。 ・学生支援機構の奨学金制度や官民の教育ローン制度、学校法人静岡理工科大学グループで企画した学費サポートプラン等を学生・保護者に紹介することにより経済的支援を行っている。 ・学校行事・イベントは全校規模で、春期にボウリング大会、バス旅行（東京ディズニーランド等）、秋期にスポーツフェスティバルを実施。また各科ごとに教育上必要な施設見学や展示会見学、ハイキング等を実施し、保護者による学校後援会組織からの支援を受けながら年間を通し実施している。 		
<u>今後の改善方策</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・前項でも前述した退学予防のための保護者との連携に合わせ、学生・保護者からの学校に対する様々な意見・要望を収集する仕組みを更に検討・実施する。 		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアサポート、経済的負担軽減への支援など、学生生活を側面から支える様々な取り組みは評価できる。 ・学生への精神的なケアを含め、健康面でのサポートを更に充実して欲しい。 (回答) 専門家のご意見を伺いながら、学校として何ができるのかを含め、検討を行う。 ・学校同窓会組織との連携による在校生への経済的負担軽減への支援体制は評価できる。 (回答) 今後も学校同窓会や学校後援会組織と連携しながら、学生利益につながる施策を検討・充実していく。 		
学校関係者評価 平均		3.8

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	3
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
学校自己評価 平均		3.8
<u>成果と課題</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・学生を収容する講義室及び実習室は、室数、面積、実習に必要なパソコン台数や実習機器が確保され、インストールソフトウェアも定期的にバージョンアップが行われている。 ・講義室及び実習室は学生の自習室として休み時間や放課後、長期休暇期間に開放している。図書については各科で 		

<p>必要図書を購入して教室や実習室に配備し、学生が適宜閲覧できるよう整備している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が使用するプリンターやデジタルカメラ、授業時に使用するノートパソコンやプロジェクター等の教育用機器備品は、毎年使用状況を確認した上で修繕や追加購入をしており、十分に整備・活用されている。 ・学校後援会の協力のもと、校舎3階屋外テラスの学生休憩スペースの整備を行った。
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・増大するインターネットアクセス量に対応する為に、学内ネットワークインフラの充実・更新を行い、教育に必要なネットワーク環境を計画的に導入・整備する。
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の整備は適切に管理・整備されていると思います。 ・学習環境は在学生だけでなく、これから学校を選択しようとする学生等に対し、大切なアピールポイントである。今後も継続的に環境整備・充実化を図って欲しい。 <p>(回答) 教育環境整備への実施優先度を検討し、計画的かつ効果的に整備事業を今後とも行っていく。</p>
<p>学校関係者評価 平均 3.8</p>

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	3
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
<p>学校自己評価 平均 3.8</p>		
<p><u>成果と課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集について教員・職員一丸となって取り組んでおり、広報資料・募集要項の内容等は適切である。 ・学校説明会は4月から9月にかけて基本的に各月1回以上実施され、オープンスクール（体験入学）については3月から9月にかけて9回実施、入試説明会とミニ体験は10月以降5回実施し、入学選考は10月以降月1回実施、3月は志願者ごとに随時実施しており、それぞれ実施プロジェクトで十分に検討を行った上で適切に実施された。 ・県内高校生を対象とする「Sangi Award 2016」を10周年記念大会として盛大に開催し、情報処理分野での競技会、デザイン分野でのコンテストを通じ、高校生、高校教員、保護者などに、本校の存在と教育活動への認知度を向上させることができた。また特別記念イベントのテレビ取材を通じ、広く社会への情報発信をすることができた。 ・入学者は定員215名に対し199名であった。 		
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の定員充足を目指し、原因を早期に分析し、平成28年度の募集活動に対策を講じる。 		
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度入学定員に達しなかった要因は何か。 <p>(回答) 法人内高校の高専一貫コースの在籍学生が少なかった年度に当たっており、定員不足分はその減少分であった。法人外からの志願者数はほぼ例年通りに推移しており、対外的な募集戦略や募集活動に大きな問題点は見当たらない。今後とも学校の教育成果をあげ、それを対外的にアピールする基本を大切に、学生募集を行っていく。</p>		
<p>学校関係者評価 平均 3.7</p>		

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
学校自己評価 平均		4.0

成果と課題

- ・学校法人全体を統括する理事会・評議員会は年3回、5月、9月と2月に定期的実施され、議事録は適切に作成管理されている。
- ・就業規則などの諸規程は整備されており、一部抜粋が規程集として全職員に配布され、また全ての規程集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。
- ・組織間の連携は、校長会及び4つの部会（進路、企画、教育、広報）と中期計画策定委員会を中心に十分な連絡会議が持たれている。
- ・消防計画は年度ごとに防災マニュアルを作成し、非常時の危機管理対策について周知徹底している。
- ・個人情報は使用目的等を明示したうえで収集、利用、廃棄している。A E DについてはA E D管理責任者を配置し、1階に事務室に配置され、使用方法について全職員がレクチャーを受けている。
- ・セクシャルハラスメントのみではなく広くハラスメント全般に対応するようハラスメント委員会を設け、委員名や連絡方法、またハラスメントへの対応等を明記した文書を校舎内廊下に掲示している。
- ・情報セキュリティ委員を選任し、情報の持ち出しに対しては管理記録簿により管理している。
- ・学園の財務情報はホームページ上に公開され常時閲覧可能である。財務分析比率は適切な数値となっている。

学校関係者 評価コメント

- ・現状では適切に組織・運営されており、健全な学校経営で安定している。学生数は学校の財務基盤に直接繋がると思うので、学生の安定確保と退学防止により一層力を入れて欲しい。

学校関係者評価 平均 **4.0**

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	3
学校自己評価 平均		3.7
<u>成果と課題</u> ・学校施設を活用した、高校教員の研修、高校生の職業体験授業や技術体験授業などを随時受託している。 ・留学生の受入体制について留学生相談室を常設し、クラス担当と相談室が連携の下で留学生のケアに努めている。		
<u>今後の改善方策</u> ・留学生の受入に関する歴史が浅いことや、入学生の国籍も多様化してきている為、法人内の日本語学校や各校と留学生ケアのノウハウを共有し、充実させていく。		
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・社会貢献や地域貢献は、学校の存在意義を対外的に知ってもらう上で重要であり、取り組みとして評価できる。 今後更に学校をオープンにし、それら取り組みを推進してほしい。		
学校関係者評価 平均		4.0